叛逆者連合を弾劾する！

小ブルジョア急進主義をのりこえ、沖縄反安保闘争、学館闘争の巨大な前進をかちとれ！

教育学生会議

60年安保期の歴史的激動のもと、全国学園闘争の最高潮が盛り上がりに結集されて、「人間性の回復」をモットーとして叫びたてる良心的主義者が続々と登場しつつある。我が教育学部においても決して例外ではなく、それは「叛逆者連合」の名をもって実在する。

我々は、自分で自・滅と信じ込んでいるこれらのたわけた半端者の群れに対して、容赦なき戦闘を開始しなければならない。「小ブルジョア運動の微衰化」が彼らの立脚するところであり、「大学破壊・早大帝外現の全学化」が彼らの目指すものである。彼らは決して、それ以上でもそれ以下でもない。彼らの武器実が「小ブルジョア」そのものであり、彼らの立脚点が「小ブルジョア」であるのは、それ以上でもそれ以下でもない。

二学年に位する学生としての自分自身であり、彼らの立脚点が「小ブルジョア」であるのは、それ以上でもそれ以下でもない。

本能のあらわれであるとするならば、そこからは何も出されて来ないのである。

第二学館闘争と沖縄一体闘争であるのか？　我々の眼前につきつけられたこの問題を、歴史的に行動的な主体としての我々自身が、その意味を深り下げ、そして如何なる創りかえしてゆくのか？

問題提起として、こう立てられねばならなかった訳である。我々はこうしたことに対して、自己自身の現状を破壊する彼ら「叛逆者連合」に対して、厳しい怒りを覚えざるをえない。その怒りは全人間的なものである。

とりわけ、知花安保を一年後に控えて、4/28沖縄一反安保闘争の環境が熟し来ようとしている今日、「大学闘争の泥沼化」を自己目的的に追求し、その幻想に酔うなどということは、微頭微尾反対有効目及人間的なことである。知花安保「再燃対策」に向けて、現有支配者階級は着々とその布陣を整行すべく運命づけられており、プロレタリアートはプロレタリアートとして、安保闘争を現しうるだけの物質的力をも備えた圧倒的な階級的反撃の闘いへと転化することが、熟知に追求されねばならない。我々は至稲田大学に於いて、その一翼を担うべく、4/28沖縄一反安保全学ストライキ闘争を突破口として、蓮進してゆくのでなければならない。

全ての学友諸君！　我々は全身的有階級の名に於いて、否、全人間性の名に於いて「叛逆者連合」の諸君のなすことなしている行為を弾劾する！と同時に我々は、東大全共闘が、日大全共闘がなすべくしてもしえなかった学園闘争と沖縄一反安保闘争の同時的推進という困難かつ現実的な課題を、この4・5月に於いて必ずや実現してゆくであろう。その闘いの最前線には、常に教育学生会議の真紅の旗がひるがえっているであろうことを、はっきりと宣言したい。